



青少年赤十字 (JRC) リーダーシップ・トレーニングセンター

■みんなでリーダーを目指そう！

リーダーシップ・トレーニングセンター（以下、トレセン）では、小・中・高校生が2泊3日の集団生活において、フィールドワークやグループワーク、社会福祉施設訪問等の様々なプログラムを体験し、リーダーシップの取り方を学びます。

トレセンは、特定の参加者だけがリーダーシップを取るのではなく、ある時はリーダーになり、また時には協力者の立場を取ることができるように、メンバー全員がリーダーシップの取り方を学べることが特徴です。

参加募集等に詳細については、当支部青少年赤十字担当者までお問合せ下さい。



フィールドワーク

みんなで協力することで一体感
が生まれました（小6男）



非常食づくり

災害が起きた時のために備えが必要だと思いました（中1女）



福祉施設訪問

おじいさんの昔話を聞いて、新しい発見
がありました（高1男）





トレセンの特徴的な取組

●ボランタリー・サービス（V・S＝奉仕活動）

ニーズを発見し、自分の利益を求めるない自発的な行動により、問題解決を図る手法。相手の立場にたち、その気持ちを理解し、自分の能力に応じて、他のために自分を活かす生活を送ります。メンバーはV・Sを身をもって体験することによって、「気づき、考え、実行する」態度を養うことになります。

どのような仕事を、なぜ行いたいかをはっきりと自覚させるために、V・Sカードを利用します。

（例：役割をあらかじめ定めた係活動の廃止、V・S時間の設定）

●先見（せんけん）

先を見通した考え方や行動をすること。集団生活を送るトレセンの中で、子ども達が自分自身を取り戻し、反省・今後の段取り・余裕を得る時間として、自分の考えを明確に把握し、これから自分の学ぶ態度を決定する重要な時間。「先見の時間」を設定し、その意識付けを重視しています。

●合図（指示）のない生活（5分前行動）

「誰も号令をかけない、かけられない生活」の中でメンバー自身の自己管理を促します。トレセンでは、先生の号令ではなく、行動の基礎になる情報は「掲示板」に掲示します。

●自主・自律の心を育む場

指導者は、問題の本質に気づくためにアドバイスやヒントを与え、メンバー自身の気づきと行動を引き出します。メンバー自身が問題やニーズを発見し、納得することにより、その後の取組のモチベーションの向上が期待されます。

●ホームルーム（HR）

家庭的な雰囲気の中で、メンバーが自分の考え方や反省、疑問などを自由に出し合い、必要に応じて指導者から助言を得る時間です。

建設的に処理しまとめていく過程で、自発的な生活態度を促し、各人の抱える課題を浮き彫りにさせていきます。

●フィールドワーク（F・W）

トレセンの総仕上げとして、グループごとに野外活動の中で、決められた様々な指示や課題をクリアしていきます。トレセンで得た知識や技術、態度を振り返ることで、実際にどれだけ身に付いたかを知る良い機会でもあります。

野外の美しい自然に接しながら、グループで実習することで、協調性や親睦増進の狙いもあります。

